

拠点形成研究交流報告：オランダ ワーゲニンゲン大学訪問 社会科学分野の連携に向けて

2018年3月に、オランダの研究拠点校であるワーゲニンゲン大学（Wageningen University and Research）を訪問し、社会科学分野の連携に向けた研究打ち合わせを行いました。同大学とは既に、植物系、動物系での協定が結ばれていますが、社会科学系の交流はこの訪問が出発点となります。ワーゲニンゲン大学のキャンパスは広大で、例えば植物系の建物はRadix(根)など、どの研究棟にも呼び名があり、今回訪問したLeeuwenborchと呼ばれる研究棟には、社会科学関連の研究グループが各フロアに集まっていた（写真左）。

ワーゲニンゲン大学の組織は、教育研究機関である大学（University）と農業関連の研究所（Research）が結合しています。社会科学部で行われた会議には、大学側から Alfons Oude Lansink 研究科長と、研究所側から Jos Verstegen 博士に加え、後藤一寿先生（農研機構から在外研究のため滞在中）にもご同席頂きました。会議では、東北大学農学研究科資源環境経済学講座の紹介を行い、ワーゲニンゲン大学と東北大学との社会科学分野での共同研究、教育連携の可能性について有意義な意見交換を行うことができました（写真中央）。

当初、午前中のみ訪問の予定でしたが、Alfons 研究科長が手早く午後の打合せを設定して下さいました。その後、Jos 博士が学内を案内して下さい、昼食を Restaurant of Future でとることになりました。このレストランはただの学食ではなく、研究所や食品会社によって開発された新しい食品を試食する実験室と、ランチを取りながらセミナーを行うことができる講堂が組み合わさっており、さらに、ラベルやロゴ、陳列方式に応じた消費者の食品選択行動をモニターする設備が備わった、消費者行動学の最先端研究が行われる施設でした。私は一人の消費者として、リゾットとガドガドスープ（インドネシア料理）を購入するというデータを提供し、最先端の機器に監視されつつ、美味しく昼食を頂きました（写真右）。

午後には、社会科学研究グループの先生方と互いの研究内容を紹介し合い、食の安全と食技術の社会実装、災害と農業、アジアの農村開発など、多くの分野で関心を共有していることがわかり、東北大学への訪問や学生の受け入れについて高い関心を持って頂きました。私は、今年度9月から1年間、在外研究で英国・オランダへ渡航しますが、今回の訪問が大きく発展するよう、在外研究中も尽力したいと思います。貴重な機会を頂きありがとうございました。

（文：東北大学大学院農学研究科 国際開発学分野 准教授 高篠仁奈）



ワーゲニンゲン大学
Leeuwenborch という名の
社会科学部の研究棟



打合せにて(左から、高篠、
Alfons Oude Lansink 教授、
Jos Verstegen 教授、伊藤房雄教授)



Restaurant of the Future
右上：リゾット、ガドガドスープ
左下：レストラン内での講演